酪農教育ファームシンポジウム開催

― 酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ ―

酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援することを目的に、全国の酪農家や関係者が牧場や学校などで教育関係者と連携しながら行う「酪農教育ファーム活動」が始まって今年で20年を迎える。これを節目に、酪農の教育的価値と役割を広く共有し、次世代につなげるシンポジウムが9月22日、東京で開催される。当日は酪農教育ファーム活動を実践する酪農家や教育関係者による実践発表や、酪農家、教育関係者、ジャーナリスト、行政等によるパネルディスカッションなどが行なわれる。開催に向けた思いを、長年活動に携わってきた教育関係者、酪農家に聞いた。

年間46万人が体験する酪農教育ファーム活動

子どもたちに牧場を学習の現場として提供する酪農教育ファーム活動は、「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的に、一般社団法人中央酪農会議から認証を受けた酪農家等が学校や教育現場と連携して行う体験学習活動だ。

活動内容は▼乳牛などのいきものとふれあう▼牛の世話や搾乳を体験する▼牛乳の原料である「生乳」の生産過程を知る▼酪農家の生き方を学ぶ、など多岐にわたる。

食、仕事、いのちを「五感」を通じて感じ取り、思考力、判断力、表現力の育成につながる授業に貢献する活動として評価されており、体験後、牛乳の飲用量や好感度が上昇する、攻撃性が低下し思いやりが向上するなどの教育効果があることもわかっている。

現在では年間4000以上の学校で20万人、学校以外の場も含めると46万人の子ども等が体験している。

安心して体験できる牧場を認証

酪農教育ファーム活動普及の背景には、体験者が安心して活動することができる環境の整備があげられる。

平成10年、中央酪農会議の呼びかけに応じ、酪農関係者と教育関係者が「酪農教育ファーム推進委員会」（羽豆成二委員長）を設立。酪農教育ファーム活動の円滑な推進のため平成12年度に「認証制度」を創設した。

これは子どもが安心して訪問できるよう、手洗い場やトイレの設置も含む一定の安全・衛生条件を満たす牧場を認証する「酪農教育ファーム牧場認証制度」だ。現在、全国で287の牧場が認証を受けている。

さらに平成20年、活動の実践者の拡大に伴い、活動にふさわしい人材育成、質の向上、方向性の統一等を目的に「酪農教育ファームファシリテーター認証制度」が設立。子ども達に情熱をもって酪農教育ファーム活動を行う「人」＝「酪農教育ファームファシリテーター」を認証する仕組みだ。効果的な体験活動ができるよう、話し方やワークショップなどの手法も学び、現在571名の酪農家等が認証を受けて活動を行っている。

牧場という「場」、ファシリテーターという「人」、この2つの認証制度が整ったことにより全国で質の高い体験活動が提供できるようになった。

近年は教育関係者の実践者拡大に向け、小中学校の教員を対象とした「酪農体験研修会」を企画。教員自身に酪農の教育的価値を実感してもらおうと認証牧場での研修を行っている。

教育実践を共有するネットワークの広がり

さらに平成22年には酪農教育ファーム活動を活かした教育実践を共有しようと、「日本酪農教育ファーム研究会」（國分重隆会長）が設立された。定例会での研究・実践報告や、毎夏には酪農関係者も交えて活動の質を高める「研究集会」も開く。酪農体験をキーワードに子ども達の未来を考えるネットワークが広がりつつある。

教育関係者と酪農家が協力

國分重隆氏
- 酪農教育ファーム推進委員会 委員
- 日本酪農教育ファーム研究会 会長
- 東京都教職員研修センター東京教師養成塾 教授

牧場を第二の教室に

25年ほど前、当時、教育現場では、いじめや子どもの自殺が今よりも深刻な問題になっていました。

「いのち」の尊さを実感させる教育の具体化が、自分の大きな課題でもありました。そんなとき、酪農に出会えたのです。

牛にふれ、ぬくもりを感じ、牛から分けてもらった「いのち」が自分を生かしてくれていることへの感謝の気持ちが生まれる体験。

「経済動物」である牛の定めや、それゆえに愛情を込めて世話をする人々の思いに心が揺さぶられる酪農家との対話。「いのち」の大切さを諸感覚で実感できる酪農に出会えた感動は、当時、共に教材化に挑んでいた教育関係者の「牧場を第二の教室へ」という機運を高めました。

それが酪農関係者の、酪農への理解の促進や、学校教育に貢献するために、牧場を積極的に開放しようとする思いと結びついて、「酪農教育ファーム活動」が誕生したのです。同時に、中央酪農会議を事務局とする酪農教育ファーム推進委員会が組織され、活動を全国に普及する動きが始まりました。やがて牧場での活動の安全、衛生の徹底も含めた認証制度ができ、現在、認証を受けた多くの牧場及び牧場での教育にかかわるファシリテーターにより全国規模で酪農教育ファーム活動が展開されています。

座学では成し得ない実感

「食の原点にあるいのち」を実感する学びは、座学では決して成し得ません。

校長時代、牧場体験の帰り、バスの中で一人の子どもの「子牛が飲むはずのミルクをもらって私は生きているんだ」というつぶやきをきっかけに議論が始まり、最後は「自分のいのちは、一つだけれどいろんないのちを引き継いでいる。大切にしよう」という結論に収束していく、まさに「主体的・対話的で深い学び」を子どもたちと共有したことを思い出します。

これが、一度の体験でも子どもたちの心を耕し、いのちを大切に思う心の優しさを育ててくれる酪農教育ファーム活動のすばらしい価値なのです。

教師も心で感じ、学ぶ

酪農教育ファーム活動は、生産現場に外部の人間を受け入れるリスクも抱えながら、牧場を開放して教育に役立てようとする酪農家の皆さんの熱意により成り立っています。そして「食」「しごと」「いのち」に関する学びを本物にする大きなきっかけになります。

総合的な学習の時間や道徳教育、社会科における地域や産業の学習、さらには職業教育やキャリア教育なども充実させます。酪農教育ファーム活動で「いのち」とは「生きる」とはということを、子どもと教師が共に体験し、心で感じ学ぶ時間は貴重になると思います。

子どもたちとともに学び成長する

加茂太郎氏
- 株式会社加茂牧場代表取締役
- 元小学校教員

いのちについて考えるきっかけに

酪農教育ファーム活動には、子どもたちが牧場に来るスタイルのほかに、酪農家が学校に出向く「出前授業」というスタイルがあります。出前授業では本物の牛を連れていくこともありますが、酪農家が単独で出向く場合もあります。私が単独で学校に行くときは、牧場の写真や等身大の乳牛を描いた布を見せ、牛のえさに触らせ、においを嗅がせたりしながら、五感に訴えることを心がけています。

私が活動を通じて最も伝えたいテーマは「いのち」です。私たちが飲む牛乳は出産した母牛からしか生産できず、本来は子牛が飲むためのものです。また、母牛は乳が出なくなれば最終的には「お肉」になります。そうしたことを本当の意味で理解している子どもは多くありません。理由や過程とともに説明すると、皆真剣に聞いてくれます。いのちについて考えるきっかけになっているのではないかと思います。

どの角度からでも深く学べる

酪農教育ファーム活動を始めたのは10年ほど前です。実は私は元小学校の教員で、妻の実家の牧場を引き継ぐ形で酪農を始めました。それまで牛にかかわったことはなく、一から仕事を覚えて現在に至っています。

だから、初めて酪農に触れる子ども達が不思議に思うことや、目を輝かせるポイント、興味や関心を持つ理由がよくわかるのです。自分も経験してきたことですから。その意味では「酪農そのものが高い教育的価値を持っている」ことに気づきながら酪農教育ファーム活動にのめりこんでいったという感じです。

酪農は探究すれば深く、教科との関連では多様性があり、どの年齢、どの角度からでも子どもたちが学べる教材になります。生乳生産の仕組みや過程を知り、酪農を生業とする人の生きた言葉と仕事への情熱にふれ、「経済動物」としての牛とふれあうことで、子どもたちに食やしごと、そしていのちについて考えさせることができます。

牛は、人が普段の生活の中でかかわる中では最大級の動物です。その「いのち」のはじめから終わりまですべてを見ることができるのは、酪農教育ならではの特徴です。

牛乳や乳製品は私たちの食生活に不可欠であり、酪農は社会に必要な産業です。酪農教育ファーム活動は子どもたちの学びという面だけではなく、酪農という産業への理解を広げるとともに、酪農家自身が成長する機会にもなると考えています。

教育関係者、酪農家などが集い酪農教育ファーム活動の原点、歴史、現状を確認し、その価値と役割を共有、未来を展望する。▼酪農教育ファーム活動の歩み▼酪農家と教育関係者等による事例発表▼「酪農教育ファームの未来」をテーマにしたパネルディスカッション▼展示コーナーなどが予定されている。

これまで酪農体験に参加した学校関係者だけでなく、未実施だが興味があり実践事例等の情報がほしい教員等も参加可能。

申し込みは中央酪農会議のウェブサイトから申込用紙をダウンロードし記入後、メールまたはFAXで送付。参加無料。定員200名。7月31日㈫締切。

問合せ＝中央酪農会議業務部（阿南・齋藤）☎03-6688-9841

FAX03-6681-5295

メール／anan@churaku.jp

URL／http://www.dairy.co.jp/edf/

9月22日東京／酪農教育ファームシンポジウム開催

酪農教育ファーム活動が始まって20年。節目の取り組みの一環としてシンポジウム「酪農教育ファーム20年を節目に～酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ～」（主催＝一般社団法人中央酪農会議、酪農教育ファーム推進委員会）が9月22日㈯13時より、東京・京橋のTKPガーデンシティPREMIUM京橋で開かれる。

シンポジウム 開催のご案内

酪農教育ファーム20年を節目に

―酪農を通して食・しごと・いのちの学びを未来につなぐ―

平成30年 9/22㈯

●シンポジウム 13:00～17:00

●懇親会 17:30～19:00

会場 TKPガーデンシティPREMIUM京橋 東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン22階

【主催】一般社団法人中央酪農会議／酪農教育ファーム推進委員会

参加申込・受付中

＊申込締切／7月31日㈫